



【ほうへいかん】

豊平館

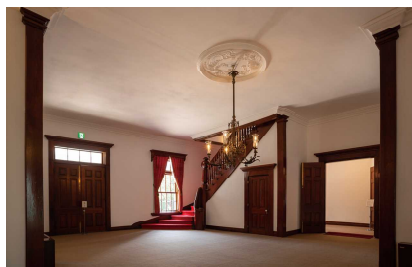
明治初期のホテル建築

豊平館は、開拓使が洋造ホテルとして建てたものである。安達喜幸を中心とする開拓使工業局宮
あだち よしゆき 緒理おんかが設計・監督にあたり、大岡助右衛門おおおか すけえもんの工事
うけお請負で、明治12(1879)年2月起工、同13(1880)年
 11月に完成した。つづいて付属施設、鉄さく、造
がいのこう園などの外構工事を行い、明治14(1881)年、明治
てんすいこう天皇行幸の直前に総工事費5万2,868円をもって全
 工事を完了した。

この建物は、明治初期の開拓使建築の貴重な遺
 構であり、3代にわたる行幸啓があった由緒のある
 建物である。

建築当初は現在の北1条西1丁目にあったが、昭
 和32(1957)年に解体、翌年現在地へ移築された。

1階ロビー



2階広間



だい く とうりょう 大工棟梁の技術の高さ

豊平館の建築を請負った大岡助右衛門は、時計台、藻岩学校、創成学校その他開拓使関係の建築物を手がけた。工部大学校造家学科(のちの東京大学建築学科)の第1回卒業生が出たのは明治12年であることを思うと、洋風建築を手がけ、立派に仕上げた当時の大工棟梁の技術水準の高さに驚かされる。

げ ぎょ 気品ある懸魚・レリーフ

建築形態は、米国風様式を基調としているが、日、欧の建築要素もとり入れている。小屋組はキングポスト・トラス(真東小屋組)である。また、内部の調度品には欧州からの輸入品がある。

正面玄関の車寄せ、装飾的な手摺をまわしたバルコニーは欧風様式である。また、正面大屋根の円弧形下部には、和風意匠の懸魚(和風の彫刻をした装飾板)を用い、シャンデリア釣元の天井中心飾に、和風の気品ある美しいレリーフがある。

建築当初は総地階となっており、札幌で初めての石切山の石材を利用した例である。また、建築当初の前庭は、当時植物生育分野で開拓使に雇われていたルイス・ペーマーの指導による和洋折衷の美しい庭園であった。

シャンデリアと天井中心飾り
(2階広間)



開拓使建築の代表的遺構

この建物の所管は、明治15(1882)年、開拓使廃止とともに札幌県に移り、さらに同18(1885)年宮内省に移管された。明治43(1910)年、翌年の皇太子の行啓をひかえ、札幌区が20年間無償貸下げをうけた。大正11(1922)年の摂政宮殿下行啓を前に札幌区に下賜され、その後公会堂を付設

し、文化の殿堂として音楽会、講演会および結婚式などに利用された。

昭和15(1940)年、明治天皇の聖徳をしのんで、聖徳記念館が設置された。戦争中は軍に、戦後は進駐軍に接收されたが、昭和23(1948)年札幌市民館となり、翌24(1949)年札幌市民会館と改称された。

昭和33(1958)年、中島公園内の現在地に移転、同36(1961)年市指定有形文化財に、つづいて同39(1964)年、国の重要文化財に指定された。老朽化に伴う修理に合せ移築時に失われた建築当初の姿を復元するため昭和57(1982)年から修復工事が行われて、同61(1986)年に完成した。

平成24(2012)年からは耐震補強を伴う保存修理工事及び活用整備のための附属棟設置工事などが行われ、事務室やトイレ等、後から設置された便益設備を附属棟に移設することにより建築当初の状況に可能な限り復元した。また、附属棟にエレベーターを設けて豊平館と接続しバリアフリーにも対応する施設となり、平成28(2016)年6月にリニューアルオープンした。

概要

- 木造2階建地階付き
- 外壁下見板張り、基礎腰石積み
- 建築面積 598.5 m²

- **建築年代**: 明治 13(1880)年
- **指定年月日**: 昭和 39(1964)年5月26日
- **所在地**: 札幌市中央区中島公園 1-20
- **お問い合わせ**: 豊平館 ☎ 211-1951
- **観覧形態**: 内部観覧可
- **観覧時間**: 9時00分～17時00分
(貸室17時00分～22時00分)
- **休館日**: 第2火曜日(祝日の場合は翌日)、
年末年始(12月29日～1月3日)
- **観覧料**: 大人 350円(20人以上団体300円)
大学生・高校生150円、中学生以下無料
身体障害者手帳をお持ちの方など減免規定あり。お問い合わせください。
- **アクセス**: 地下鉄南北線「中島公園」3番出口より約400m
市電「中島公園通」 JRバス「中島公園駅前」

